

東海道と
田原街道が繋ぐ
札木町と
そこから
続く魚町、
花園町。

歴史あるこの郷土の
二つの街道によって栄えた
三つの町の記憶と記録。



豊橋は江戸時代 東海道の宿場町だった。その宿場の中心であった札木町とそこから続く魚町と花園町。この三つの町は、時代が江戸から明治へと変わり、地名も吉田から豊橋とかわった後も、さらなる賑わいと華やかさをみせていくことになる。私はこの三つの町の賑わいが「旧東海道」と「田原街道」に由来していたことを知り、歴史ある郷土の二つの街道によって栄えたこれらの町の記憶と記録を探してみたくなった。

宿場町の名残は、小さな「問屋場跡」の碑から始まる。昔は碑から西にも宿場の町並みが続いていたのだが、現在は路面電車の走る大きな通りで分断されている。その通りを渡った先、うなぎ屋の「丸」の「前」に建つ「本陣跡」の立派な石碑。これは、ここが宿場町であったことを教えてくれる数少ない記録の一つになっている。この店は「つひん」の語源の話にも登場し、店先にはそのいわれを記した看板がある。



「この『顔すくぶる別品』という言葉は、渡辺華山の息子渡辺小華が、この店のうなぎが美味しいということで付けたものです。小華は無口で、まっすぐな人だったようです。夕方まで絵を描いた後、弟子たちを連れてよく店に来ていたそうで、また、うなぎを食べない時にも度々来ては主人と茶を楽しみながら風流話をしていたとも言われています。」

渡辺小華は明治初め、豊橋の白花園に居を構え、絵を描くことに専念する傍ら、東三河の多くの門人たちにも多大なる影響を与えた人物である。上京後は南画の画家として大きな評価を受けている。うなぎ屋の主人と小華の、この何気ない生活の場面を切り抜いたような話は、作品からでは知ることが出来ない彼の普段の人柄を知ると同時に、明治初めの様子に思いを馳せることの出来る興味深い話だった。

※白花園 現在の吉田神社境内にあったもので、薬草など様々な草花が植えられていたことから、小華によって名付けられた。明治期、多くの文人・墨客なども集まっていた。



レトロ感ある外観の銀行の前まで歩き、来た道を振り返ってみた。歩きながらも感じていた札木通りの広さと、堂々とした存在感からは、ここが江戸時代宿場町の中心地であり、明治近代化の中にある豊橋の中心街であったことが想像できる。そして今も続く老舗の店から、この街の華やかだった時代を感じることができた。旧東海道に別れを告げ、魚町に続く田原街道へと足を運んだ。



かつて田原街道は札木町を起点に

現在では、この9号線が田原街道になる。かつて遠州灘で水揚げされた魚は魚町にある魚市場に集められ、その際この街道を通り運ばれた。それほどに、昔は田原・渥美方面との重要な生活路だったといえる。

現在の魚町の通りにあつて、新しさを引き、懐かしい料理店の様な上品な店舗と、時代と風格のある老舗の本町看板。そんな対照的な風景を楽しみながら「ヤマサ本店」の角を南へ折れ、安海熊野社の前に入る。境内に入ると、隅に小さな「豊橋魚町の趾」の碑を見つけた。昭和四十二年に魚町から現在の下五井町に移転するまでの約四百年以上という長きにわたり、魚市場はこの町の繁栄の源となってきたわけであり、その繁栄の記憶を、この神社の小さな石碑に見ることが出来る。ところで、この安海熊野社には、豊臣秀吉がまつたといわれる貴重な能装束が保管されているらしい。かつてこの町には能舞台があり、戦前までは盛んに能が演じられていたという。

「昔は神社の神楽殿を能舞台にして能楽が親しまれていました。明治の中頃に、神楽殿を改装し能舞台が造られ、祭祀や祝い事の際には町民による演能が催されていました。戦前までは続いていましたが、残念ながら戦災で神社が焼失してからは行われていません。」初めて知る貴重な話に、この街の文化の豊かさと歴史を感じた。

しばらく歩き一軒の鮮魚店「魚伊」に目が留まる。魚町という町名にもかわらず、この通りでの鮮魚店はここだけだそう。店先にある陳列用のガラスケースには水が敷かれ新鮮な魚が並ぶ。この店の人が客と会話を交えながら商うスタイルの店は、世代の古い方にとっては懐かしく、そうではない方にとっては新鮮に映るかもしれない。

「創業は天保年間（一八三〇〜一八四四）で、私で八代目になります。鮮魚の小売店は、魚町ではうちだけです。十年くらい前はまだまだ何軒もありましたけど、以前若いお客さんで、うちみたいなスタイルの売り方だとかうやうや買ったらよいのかからないという方もみえました。いろんな意味で時代は変わっていますが、自分たちはそれに合わせていくだけです。」

魚町という町名と、かつての活気にあふれていた時代の記憶を受け継ぐこのお店に、人とのふれあい、ゆるりとした気持ちのよい生活の速度を感じた。



花園町は吉田御坊と呼ばれる真宗大谷派豊橋別院

と五つのお寺の門前に出来た町である。現在は道路を挟んで建ち並ぶ別院と各寺院は、かつては広大な同じ敷地の内にあった。江戸時代に門前から北が地六町、南が下り町となっていたが、明治の初めに二つの町は合併し花園町となる。田原・渥美方面から吉田へ入る人々の多くがここを通り、お寺への参拝がてら買い物をするので町に潤いを与えた。この辺りに今でも衣料品店が多いのは、当時から呉服や古着を扱う店が多く、その名残があるからだといえる。



偶然、花園商店街はイベントの最中でとても賑わっていた。

「これは生徒たちがアイデアを出し合い考えたんですよ。若者の発想は柔軟でいいです。」そう先生が話すのは、イベントで高校生たちが売っていたポップコーンのことだ。「大仏の頭ポップコーン」というテーマは寺町を意識してのアイデアらしい。カッパの側面には大仏様の顔が描かれていて、そのカッパから盛り上がるポップコーンを大仏様のポップコーンとした頭にしたものである。彼らのイベントに取り組み姿に、花園町の新しい活気を感じることができた。

通りには衣料品店だけでなく、古い雑貨やカフェなどの新しい店舗も見られた。目に留まったのは「HACCOYA」の看板のある洒落た空間。

「ここは誰もが使える交流スペースで、ここを中心に、商店の人と学生たちが協力し、不定期にイベントを企画開催しています。今回のイベントもその一つです。」イベントを見守る、商店街の人の笑顔が印象的だ。

イベントで賑わう商店街を抜け、大店の風格を残す田中屋の看板を見上げた。ふと振り返ってみると、かつての門前町が賑わった様に、この通りに集まる人たちが新しい魅力を花園町に創り出していた。



まちなかモノ語りマップとは架空の主人公がまちなかを巡り、その魅力をストーリー仕立てで紹介するものです。



白山社 宗禮 富町 宗禮 文化 白山社





この香炉が
出てくる時は
見えてく
てます。

A 【狐塚】(弘文堂)

昔、神明町にいた六百歳を超える老狐が野犬にかみ殺され、哀れに思った近くの住人が塚を造り葬った。その後、医師の加藤玄順が改めて手厚く弔ったものだと伝えられる。



B 【「若松園」と「しろばんば」】

文豪・井上靖は幼少期に、軍医だった父に会うため豊橋を訪れている。その際に食べた若松園喫茶部の「黄色いゼリー」の感動と思い出が、自伝的小説「しろばんば」の文中に綴られている。



C 【豊橋魚市場】

魚市場の歴史は、今川義元が吉田を治めていた時代に遡る。その後江戸時代を経て明治10年、各魚問屋が合同して豊橋魚問屋が設立され、現ヤマサちくわ本店の東隣り(現在駐車場)に置かれた。昭和41年に現在の下五井町に移転される。

D 【豊橋魚市場発祥の地】 【魚町能装束】

豊橋魚市場発祥の地であり、貴重な能装束が保管されている。能装束は、吉田城主大河内家から藩の御用商人であった魚町の小久保彦十郎らが譲り受け、代々魚町に受け継がれている。国の重要美術品に認定されるものもある。年に二回の定例虫干し時には一般にも公開される。

◆一般公開/4月第4日曜・10月第3日曜



F 【豊橋別院】

正式には真宗大谷派豊橋別院といい、御坊さんとしても親しまれる。文禄4(1595)年ごろ、本願寺の教上人が創立した「吉田惣道場」が起源ともいわれる。江戸時代には役寺五ヶ寺として浄円寺、正琳寺、応通寺、仁長寺、蓮泉寺が置かれ寺町を形成する。敷地内にある花園幼稚園は豊橋で一番古い幼稚園。



G 【花園ベースHANACOYA】

花園商店街の一角にある小さなコミュニティスペース。商店街にあった空き店舗を学生と地域住民の手で再生した施設で、2014年グッドデザイン賞受賞。まちの縁側のような存在としてお買物の際の休憩や商店街の情報発信拠点など、誰もが気軽に利用できる。



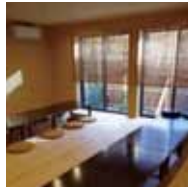
利用時間 | 10:00~22:00
◆ 貸切利用は要相談
問合せ先 | 0532-52-4486
(花園商店街 理事長 岡本)

【花園町の町名の由来】

町名の由来はこの辺りの氏神様である白山神社のお祭り「花祭り」からきているといわれている。また寺町であることからお釈迦様の生誕の地である「ルンビニーの花園」が由来とも言われている。

札木町/魚町/花園町

おすすめ店舗



1 京料理とおばんざい 吉良屋

◆0532-75-9710
◆豊橋市魚町92
◆水曜日定休
◆11:30~14:00(LO 13:00)
◆18:00~22:00(LO 20:00)
季節感を大切にどなたでも安心して召し上がっていただける優しいお味の京料理店です。銀ダラみそ 柚庵焼ランチ ¥1580 好評です。



2 かつぶし屋 まるぶん 岩瀬商店

◆0532-53-4147
◆豊橋市魚町52
◆日曜・祝祭日定休
◆9:00~18:00
一番人気「宗田厚削り」、極上の「麩けずり」、露節の美味しさを一枚に閉じこめた煎餅「踊り子」は一度食べたらずみつきに。



3 Cha-min & 茶一民カフェ

◆0532-53-2850
◆豊橋市花園町52
◆火・水曜日定休
◆10:00~18:00
ナチュラル、エスニック、レトロな雑貨と衣料のお店と体に優しいご飯とお菓子のカフェ。玄米野菜ランチがオススメです！



4 創業慶応元年 織九

◆0532-56-1570
◆豊橋市新本町118番地Y'sビル1F
◆水曜日定休
◆(10~4月) 9:00~17:00
◆(5~9月) 10:00~18:00
焼酎や生麺、麩のラスク各種、地元産蒟蒻芋使用の板・糸蒟蒻を取り揃えております。慶応のギフトもご好評いただいております。

5 Belgian Beer Cafe Hercule (ベルジャンビア カフェ エルクール)

◆0532-75-3738
◆豊橋市新本町118番地Y'sビル1F
◆火曜日定休
◆(日~木) 17:00~24:00 (LO 23:00)
◆(金・土) 17:00~2:00 (LO 1:00)
三河唯一のベルギービール専門店。ベルギーを中心とした約60種類のビールをベストコンディションで味わえるこだわりのお店です。

豊橋まちなか全体図



飲食店 物販 (ファッション) 物販 (その他) WC 飲食や物販のお店を紹介するマップです。